

大阪大学工業会 第15回音楽会

(入場無料)

ジュゼッペ・ヴェルディ

歌劇

「リゴレット」

(全曲)

演奏会形式

日時：平成26年8月24日(日)

開場：午後1時30分 開演：午後2時

(公開リハーサル)

8月23日(土) 午後1時～5時

場所：大阪大学コンベンションセンターMOホール

主催：一般社団法人 大阪大学工業会 (OKC)

共催：大阪大学大学院工学研究科／工学部

《お問合せ先》

大川真一郎 (TEL090-2380-1120)

大阪大学工業会事務局 事務局長 曽根祥光 (TEL06-6444-3660)

出演者

指揮者／ギオルギ・バブアゼ
ディレクター／大川真一郎(大阪大学工業会 理事)
マントヴァ公爵(Ten)／瀬田雅巳 その道化役リゴレット(Bar)／油井宏隆
その娘ジルダ(Sop)／尾崎比佐子 刺客(Bas)／大西信太郎
その妹マッダレーナ(M.Sop)／奥西真弓 モンテローネ(Bar)／伊藤友祐
ジョバンナ(M.Sop)／林まどか ボルサ(Ten)／西井英人
チェプラーノ伯爵(Bas)／服部英生 チェプラーノ伯爵夫人(Sop)／春田尚美
小姓(Sop)／山田千尋 マルッコ(Bar)／阿保幸雄
<男性合唱団> 大阪外大グリークラブ OB 合唱団
関西二期会オペラ・コーラス・シンガーズ 関西シティフィル合唱団 他
字 幕／岩田倫和 ナレーター／岩本泰昌 管弦楽／待兼交響楽団 他

解説

歌劇「リゴレット」

（ヴェルディ／1851年～1901年）

[作曲] ジュゼッペ・ヴェルディ (1850～51年)

[初演] 1851年3月11日 ヴェネツィア、フェニーチェ座

[原作] ヴィクトル・ユーゴーの戯曲『逸楽の王』

[時と場所] 16世紀、イタリアのマントヴァ地方

第1幕

第1場 マントヴァ公爵の宮廷

華やかな舞踏会が繰り広げられる中、好色なマントヴァ公爵は、美しい女はひとり残らず誘惑する、と公言する。

♪♪ (あれか、これか／Questa o quella)

彼の前に、美しいチェプラーノ伯爵夫人が現れると、さっそく別室へと誘い、ふたりで姿を消す。これを見て怒るチェプラーノ伯爵。しかし、道化師のリゴレットは、さんざん彼をからかいながら後を追う。そこに家臣のひとりが現れ、どうやらリゴレットは女を囲っているらしいと吹聴する。人々は、醜いリゴレットに女がいた、と驚き騒ぐ。その時、奥の扉から、モンテローネ伯爵が現れ、娘を弄ばされた怒りと恨みをマントヴァ公爵にぶつける。

リゴレットは、いつものように道化で彼をからかうが、激怒するモンテローネ伯爵は、恐ろしい形相でリゴレットを呪う。この呪いは、迷信深い彼の心に暗い影を落とす。

第2場 リゴレットの家

夜、町外れの路地裏にある家に向かうリゴレットの胸に、モンテローネ伯爵の呪いが蘇る。彼は、殺し屋のスパラフチーレに出会い、思わず殺しの値段を尋ねる。「殺し屋は、剣で人を殺すが、自分は舌で人を殺すのだ」とリゴレットは自嘲気味につぶやく。教会へ行く以外、自由な外出を禁じられているジルダは、喜んで父を迎えるが、

彼の沈み込んだ様子に心を曇らせる。リゴレットは、優しかった彼女の母親の思い出を話す。その時、外に人の気配を感じ、飛び出でリゴレット。だが、その隙に乘じてマントヴァ公爵が中庭に忍び込んだ。厳重な戸締まりを言いつけてリゴレットが去った隙に、マントヴァ公爵は、学生と名乗り、身分を偽ってジルダに愛を打ち明ける。教会で彼の姿を見ていたジルダは、一瞬で恋の虜となる。マントヴァ公爵が立ち去ると、廷臣たちがやって来る。彼らは、リゴレットの妾をさらい、マントヴァ公爵に差し出そうと計略しているのだ。

そこに戻ってきたリゴレットは、彼らに騙され、まんまとジルダをさらわれてしまう。リゴレットは、「呪いだ」と叫ぶ。

第2幕 公爵の館

マントヴァ公爵は、ジルダがさらわれたと聞いて落胆していたが、廷臣たちがジルダを連れてきたことを知って、勇んで会いに行く。そこにリゴレットが現れ、激しく憤りながら、娘を返せ、と叫ぶ。泣きながら走り出たジルダは、いつも教会で会う学生と出会った昨夜の出来事を父に語る。そこに、牢獄へと引かれて行くモンテローネ伯爵が通りかかり、マントヴァ公爵の肖像画を睨みつけながら、復讐を誓う。リゴレットが、その復讐は自分が遂げると言うが、ジルダは、マントヴァ公爵を許すよう願う。

第3幕 殺し屋の家

町外れ、ミンチョ河畔にある殺し屋の居酒屋。リゴレットは、マントヴァ公爵への愛を断ち切れないジルダに、いかがわしい酒場の様子を見せて諦めるように言う。中ではマントヴァ公爵が軽やかに歌っている。

♪♪ (女心の歌/La donna e mobile)

そこではマントヴァ公爵は、殺し屋の妹マッダレーナを口説いていた。その光景を酒場の外で伺う父娘とともに四重唱が繰り広げられる。

♪♪ (いつかお前に会ったような気がする/Un di, se ben rammentomi)

リゴレットは悲しむジルダに、ヴェローナに逃げろと言いつけ、殺し屋に、マントヴァ公爵殺しの手付け金を渡す。残金は、夜中に死体を確かめてから渡す約束だ。

嵐が近づき、マントヴァ公爵は、居酒屋の二階に宿を取る。だが、彼を愛するマッダレーナが、殺しに反対する。その様子を、そっと戻ってきたジルダが覗き見ている。スパラフチーレは、仕方なく、時間までに誰かがやって来たら、それを身代わりにしようと妥協する。これを聞いたジルダは、宿のドアを叩く。嵐の雷鳴の中で、瀕死のジルダは身代わりとなって、死体袋に入れられる。

リゴレットが、死体を確かめに来て、死体袋を外へと引きずり出す。だが、その時、何処からともなく、マントヴァ公爵の高らかな歌声が聞こえてくる。慌てふためいてリゴレットが袋を開けると、その目に飛び込んだのは、瀕死のジルダの無惨な姿だった。彼女は苦しい息の下で、親不孝を詫び、息絶える。リゴレットは、「あの呪いだ」と絞るように叫び、娘の遺体に泣き崩れるのだった。

プロフィール



◎指揮／ギオルギ・バブアゼ

1962年グルジア共和国トビリシ生まれ。トビリシ国立音楽院にてシウカンユヴィリ教授にバイオリンを、オデッセイ・ディミトリアディー氏に指揮を学ぶ。モスクワにてボロディン弦楽四重奏団のベルリンスキイ氏に師事。1986年より5年間バトゥミ市交響楽団の指揮を務める。1990年よりグルジア音楽協会室内管弦楽団の芸術監督および首席指揮者を務め、フランス、ドイツへ演奏旅行。その他、国内外におけるオーケストラのバイオリン奏者とイタリア諸都市で演奏する傍ら、グルジア弦楽四重奏団のメンバーとしても活躍。1996年より大阪シンフォニカ交響楽団のコンサートマスター、2001年10月より関西フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターに就任。2002年4月より京都市立芸術大学バイオリン専攻非常勤講師も務める。トビリシ弦楽四重奏団のメンバー。

◎マントバア公爵(Ten)／瀬田雅巳

ワイルドな風貌に端正で伸びやかな高音が特徴のテノール歌手。これまでに「アイーダ」ラダメス、「椿姫」アルフレード、「リゴレット」マントバア公爵、「ラ・ボエーム」ロドルフォ、「トスカ」カヴァラドッシ、「蝶々夫人」ピンカートン、「ジャンニスキッキ」リヌッチョ、「ルチア」エドガルド、「カルメン」ホセなどを演じる。聖和大学キリスト教教育学科卒業、Muro Augstini、千代崎元昭、田原祥一郎各氏に師事。川西音楽家協会会員、関西二期会会員。

◎その道化役リゴレット(Bar)／油井宏隆

大阪音楽大学大学院オペラ研究室修了、2000年より文部科学省海外派遣によりミラノに留学。今迄にオペラやミュージカル、演奏会、レクイエムのソリストとして多数出演。またイタリアではパヴィアのフ拉斯キーニ劇場、マチュラータのラウロ・ロッシ劇場、ミラノのロゼートゥム劇場、チルコロ・パヴィア・リリカに出演する。第4回大阪国際コンクール声楽部門(一般の部)第一位及び宇野收賞受賞、第2回神戸コンコルソ最優秀者賞、第9回摂津音楽祭奨励賞、関西二期会29期生特待生入所。田原祥一郎に師事。大阪城南女子短期大学教授、関西二期会正会員。

◎その娘ジルダ(Sop)尾崎比佐子

大阪音楽大学卒業。第16回飯塚新人音楽コンクール大賞他受賞。平成14年度兵庫県芸術文化奨励賞、第6回松方ホール音楽賞大賞他多数受賞。オペラは「魔笛」夜の女王でデビュー。以降オペラ出演は数多く、堅実なテクニックと的確な表現力、そして幅広い音域と豊かな声量でコロラトゥーラからリリックまで様々な役柄を演じ切る実力派ソプラノとして注目されている。第九や宗教曲のソリストとしてオーケストラとの共演も多く、また「クオレの会」を中心としたチャリティーコンサート出演にも力を注いでいる。

関西二期会理事、日本演奏連盟会員、同志社女子大学講師。

◎刺客(Bas)／大西信太郎

大阪音楽大学専攻科終了後、関西二期会公演にて「カルメン」モラレス役を歌いオペラデビュー。その後も「ルクリーシア」ジュニアス、「コジ・ファン・トゥッテ」ドン・アルフォンソ、「トスカ」アンジェロッティ、「リゴレット」スパラフチーレ、「愛の妙薬」ドゥルカマーラ、「ドン・ジョヴァンニ」タイトルロール、「こうもり」ファルケ、「メリーウィドー」ダニロ等、様々な役柄で出演。また、最近では「ザ・ベルカントシンガーズ」のメンバーとしてTV番組レギュラー出演や各種コンサート出演等ジャンルにとらわれない幅広い活動を展開中。

◎その妹マッダレーナ(M.Sop)／奥西真弓

大阪音楽大学音楽学部声楽学科卒業、山村敏子、高坂幸子の両氏に師事。1992年飯塚コンクール本選入賞。関西フィルハーモニー管弦楽団等数々のオーケストラと共に演奏。松永みどり弦楽四重奏団とレスピーギ「夕暮れ」を共演の他、数々の演奏会に出演。ソロリサイタル3回開催。2013年6月ロシア総領事館「ロシア独立記念パーティ」において「君が代」独唱。阪大オペラ公演では、2009年「カルメン」のカルメン、2010年「こうもり」でオルロフスキー、2011年「カヴァレリア・ルスティカーナ」でサントウツア、2012年「アイーダ」でアムネリス、2013年「トロヴァトーレ」のアズチエーナで出演。2014年4月関西オペラコーラスシンガーズ演奏会にて「カヴァレリア・ルスティカーナ」のサントウツアを再演。教育委員会室参事、関西二期会正会員。

◎モンテローネ(Bar)／伊藤友祐

大阪音楽大学音楽学部声楽学科在籍。第63回、第67回全日本学生音楽コンクール声楽部門高校の部、大学の部ともに大阪大会、第1位入賞。

第13回ノーヴィ国際音楽コンクール声楽部門一般の部、最高位を受賞。

◎ジョバンナ(M.Sop)／林まどか

大阪音楽大学短期大学部声楽専攻卒業を経て同志社女子大学学芸学部音楽学科声楽科卒業。関西二期会オペラスタジオ38期終了 オペラはこれまでに「椿姫」アンニーナ、フローラ、(ヘンゼルとグレーテル)ヘンゼル、ゲルトルート、「魔笛」ダーメⅡ、ダーメⅢ、クナーベⅢ、「愛の妙薬」ジャンネット、「コジ・ファン・トゥ

ッテ」ドラベッラ、「蝶々夫人」ケイトなどで出演。NYとイタリアで開かれた The Summer Program に参加、オペラの研修を積む。その他、帝国ホテル大阪チャペルコンサート、ジョイントコンサート等に多数出演。

◎ボルサ(Ten)／西井英人

大阪音楽大学大学院歌曲研究室終了。坂上和夫氏に師事。在学中、関西歌劇団本公演でのオペラソリストを始め、他団体でも多くの宗教曲、オラトリオ・合唱曲のソリストも多くつとめた。大学院終了後、芦屋学園中学校高等学校教諭に就任する。大東市歌声の会指導者。川西市音楽家協会会員。関西歌曲研究会会員。

◎チェプラーノ伯爵(Bas)／服部英生

京都教育大学卒業。会社員、中学校講師を経ながら研鑽を積む。関西二期会や愛知県芸術劇場、びわ湖ホール、兵庫県立芸術文化センターをはじめ、各地のプロダクションにて数々のオペラに出演。また、「第九」、「メサイア」、フォーレ「レクイエム」などのソリストを務める。一方、学校公演やワークショップ、合唱指導の派遣などの活動も積極的に行っており。現在、関西二期会会員。

◎チェプラーノ伯爵夫人(Sop)／春田尚美

大阪音楽大学音楽部声楽科卒業。ウィーン、ミュンヘンにて研鑽を積む。本公演では「カヴァレリア・ルスティカーナ」「イル・トロヴァトーレ」に、また国内外にて多数出演。関西歌曲研究会、奈良県音楽芸術協会、大和郡山市音楽芸術協会各会員。RJCアカデミー主宰。帝塚山中学高等学校非常勤講師。

◎小姓(Sop)／山田千尋

相愛音楽大学専攻科修了。ヴェルディ音楽院にてディプロマ取得。兵庫県高等学校独唱独奏コンクール銅賞受賞。「愛の妙薬」「こうもり」等のオペラに出演。米田哲二、泉貴子、出口武、西垣俊朗の各氏に師事。関西二期会準会員。加古川シティオペラ会員。

◎マルッロ(Bar)／阿保幸雄

大阪大学歯学部卒 大阪市中央区にて歯科医院開業、声楽を田中公道氏、フィリップ・エイムズ・フェイン氏に師事、大阪大学混声合唱団、交響楽団、バロック協会合奏団指揮者を歴任、関西シティフィルハーモニー交響楽団 チェロ奏者 名誉団長

◎男性合唱団／大阪外大グリークラブ OB 合唱団

1926に誕生した当グリークラブは今年創部88年を迎え、黒人靈歌や世界の民謡などをレパートリーにしてきました。作曲家 清水脩氏は 当合唱団の大先輩です。今回阪大オペラに初めての参加。(現在、旧大阪外大は大阪大学に併合され、大阪大学外国語学部に。)

◎合 唱／関西二期会オペラ・コーラス・シンガーズ

関西二期会では、質の高いオペラの上演を通じて、オペラの普及活動を進めているが、一層のオペラの普及を図るため、平成20年7月に、関西でも数少ない「オペラの合唱曲を中心として歌うアマチュア合唱団」を結成した。この合唱団は、関西二期会の会員が指導者やソリストとして、サポートするという他にはない特色を持っている。年1回の定期演奏会を行い、オペラのハイライトや合唱曲を、オペラファンの皆様に、お届けしている。また色々な会場で演奏活動を行い、ユニークな活動を続けて、オペラを歌う楽しみ喜びを伝えている。

◎関西シティフィル合唱団

◎字 幕・操作／岩田倫和

関西シティ フィル管弦楽団所属

◎ナレーター／岩本泰昌

Anthology コンサートシリーズプロデューサー Anthology June コンサートは今年で25年目、全国的に珍しい「テノール&バリトンコンサート」は今年で23年を迎える。ステージ写真家として世界の第一線で活躍の演奏家を数多く撮影。42年間証券営業に携わり、元日本証券アナリスト協会一般会員。1992年から新生ロシアとの市民レベルの文化交流に携わる。学生時代所属する男声合唱団が全国制覇。関西ブロードバンド代表。大阪サンクトペテルブルク世話人代表。

◎管弦楽／待兼交響楽団

当楽団は 1993 年 6 月、団長の呼びかけで集まった大学オーケストラ経験者 40 数名により結成されました。「待兼（まちかね）」の名は、団長の出身である大阪大学（豊中キャンパス）が所在する“待兼山”に由来している。現在の団員は 20~40 代の社会人が中心となっており、伊丹市、尼崎市を練習拠点とし、毎年の定期演奏会のほか、オペラ作品の全曲演奏、地域の方々に提供するファミリーコンサートなど、さまざまなスタイルの演奏活動を行っている。

◎ディレクター／大川真一郎

大阪大学電気工学科卒。後藤高行・浅野常彦、S.プロティッヂ各氏に師事。関西フィルの前身ヴィエールフィルにクラリネット奏者として入団。プレイイングマネージャーを経て、関西フィル代表を 20 年勤め現在名誉顧問。元大阪音大理事。大阪フィル初め各オーケストラとモーツアルト協奏曲だけでも 20 回ステージに立つ。室内楽ではウィーンフィルのメンバーと、ジャズでは北村英治、中島俊夫らと共に演。今年の 4 月には傘寿コンサートを行なった。

◎主 催／一般社団法人 大阪大学工業会

大阪大学工業会は、大阪大学工学部・同大学院工学研究科の在学生、卒業生・修了生、教員及び元教員を会員とする、大正 4 年から続く歴史と伝統を誇る同窓会組織です。母校の教育・研究の援助・奨学、会員相互の親睦・交流を図る活動を幅広く行っているほか、科学技術に関する研修等を行い、広く日本の学術・科学技術の発展に努めている。今後も科学技術展示会・音乐会をはじめ、広く皆様にご参加いただけるイベントの開催や社会貢献を行なっていきます。

大阪大学工業会「演奏会歴」

第 1 回	1999. 8. 1	W. A. モーツアルト	喜歌劇「フィガロの結婚」
第 2 回	2001. 8. 5	J. シュトラウス	喜歌劇「こうもり」
第 3 回	2002. 8. 4	F. シューベルト	交響曲「未完成」
第 4 回	2003. 8. 24	J. ヴェルディ	歌劇「椿姫」
第 5 回	2004. 8. 8	W. A モーツアルト	歌劇「魔笛」
第 6 回	2005. 8. 7	W. A モーツアルト	歌劇「コシ・ファン・トゥッテ」
第 7 回	2006. 7. 30	W. A モーツアルト	歌劇「ドン・ジョバンニ」
第 8 回	2007. 8. 19	W. A モーツアルト	歌劇「フィガロの結婚」
第 9 回	2008. 8. 31	F. レハール	喜歌劇「メリーウィドー」
第 10 回	2009. 10. 4	G. ビゼー	歌劇「カルメン」
第 11 回	2010. 9. 29	J. シュトラウス	喜歌劇「ジプシー男爵」「こうもり」抜粋
第 12 回	2011. 8. 28	J. ヴェルディ	歌劇「椿姫」
		P. マスカーニ	歌劇「カヴァレリア・ルスティカーナ」
第 13 回	2012. 9. 2	J. ヴェルディ	歌劇「アイーダ」1 th 2 th 3 th 4 th 5 th
第 14 回	2013. 9. 1	J. ヴェルディ	歌劇「トロヴァトーレ」
第 15 回	2014. 08. 24	J. ヴェルディ	歌劇「リゴレット」

歌劇 リゴレット

ジュゼッペ・ヴェルディ(1813年～1901年)

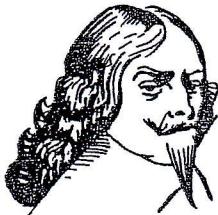
初演：1851年3月11日（嘉永4年）ヴェネツィア・フェーチュ座

原作：ヴィクトル・ユーゴの戯曲「悦楽の王」

原作はパリを舞台とし、フランソワ一世の好色を描いたものでしたがフランス当局の弾圧を受け 舞台を16世紀のイタリアの北部のマントヴァ公国に移し 役柄と内容を多少変えて上演となった様で 初演から大評判となり ヴェルディの出世作のひとつとなりました。

公国では公爵が伯爵、子爵、男爵等の身分の与奪権を持っていて全権を持つ若き好色家マントヴァ公爵とその取り巻きの廷臣達と公爵のおかかえ道化師リゴレット父娘とが怨恨溢れる悲しいストーリーです。

◆ マントヴァの街の人口は4～5万人 欧州の人口推定6千万人



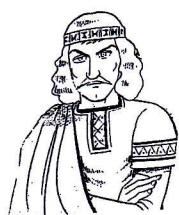
道化師 リゴレット

公爵の威を借り 家臣達を笑い物にするのでみんなに恨みをかっていた。



放蕩領主 マントヴァ公爵

若き領主は好色で有名で美しい女性や魅力的な女性には目がなかった。



殺し屋 スパラフチーレ

報酬をもらって恨みを晴らす腕ききの殺し屋でリゴレットに仕事を持ちかける

リゴレットの娘 ジルダ

宮仕えの休暇をもらい3カ月前から

リゴレットの元へ里帰り、世間はリゴレットの情婦と噂される。



殺し屋の妹 酒場の女

魅力的な マッダレーナ
マントヴァ公爵の愛人のひとり、

主なアリア (どれもこれも素晴らしい名曲です)

1幕 1場 「あれか これか」 マントヴァ公爵 パーティで美女達を眺めながら歌います。

2場 「あいつは力で人を刺し、わしは言葉で人を殺す」 リゴレット

「あなたは心の太陽」 マントヴァ公爵が貧乏学生マルデと名乗って歌う曲

「慕わしい人の名は」 ジルダが偽学生マルデを想って歌う素晴らしいアリアです。

2幕 「ほほの涙」 マントヴァ公爵がジルダを想って歌う曲。

「悪魔め鬼め」 リゴレット 娘をさらわれ その上に嘲笑われ怒り絶頂の曲。

「祭りの日にはいつも」 ジルダ ひと惚れしたマルデを想っての曲です。

3幕 「風の中の羽根のように」 マントヴァ公爵 一世を風靡した誰もが口ずさむ名曲です。

「何時かあなたに会った時から」 リゴレット、ジルダ、マントヴァ、マッダレーナ

4人4用の想いを歌ったこの曲は4重唱の大傑作曲として現代にいたっています。

「美しいおとめよ」 マントヴァ公爵